日本未熟児新生児学会平成 23 年度総会議事録

日 時:平成23年11月13日(日)13:00~13:30

場 所: 東京国際フォーラム B ブロック 7 階ホール B7 (第1会場)

議事

I. 報告事項

- 1. 理事長挨拶(戸苅理事長)
- 2. 会長挨拶ならびに報告(楠田会長)

第56回学術集会は「新生児の声を聞く」というテーマで開催している。盛沢山の内容になっているので皆様に協力をいただき、成功させたい、とのご挨拶があった。

3. 庶務報告(本間幹事)

• 新入会者, 退会者の件

会員数 (全会員数 3,194 名, 名誉会員 27 名, 功労会員 46 名), 新入会員 228 名, 退会者 207 名について 報告が行われた。平成 22 年度末の資格喪失者は 76 名であった。

• 会費滞納者の件

資料に基づき平成23年度資格喪失退会予定者96名(平成22年度報告数:89名)について報告された。 平成21年度以降会費が未納で、2月の請求後、10月に再請求を行ったが、10月末現在、振込が確認できていない。12月末日までに振込が無い場合には資格喪失退会となる。物故会員、大浦敏明先生(名誉会員) 光藤伸人先生(評議員)の黙祷が行われた。

4. 各種委員会報告

1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会(戸苅委員長)

6月に学会賞選考委員会を開催した結果,平成22年度日本未熟児新生児学会賞受賞論文が決定し,第2回 理事会にて承認された。受賞者の加藤 晋先生には,この会場で総会後に講演を行っていただく。

- 2) フェローシップ選考検討委員会(戸苅委員長)
 - ・今年度のAJフェローシップ採用者は22名であった。本日の懇親会には13名が出席予定で、会期中にそれぞれ演題を発表する。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印をつけ、懇親会会場および演題発表時には「AJフェローシップ」と書かれた赤い名札を付けているため、見かけられた際には温かい声かけをと、呼びかけられた。
 - 今年度の佐多フェローシップ採用者、柳 貴英先生に、本日この会場で 13:50 ~ 14:00「ロンドン留学報告」と題して佐多フェローシップ留学体験記をお話いただく。
- 3) 薬事委員会・新生児の輸血問題小委員会(伊藤委員長・小山委員長)

リネゾリドの使用実態調査が終わった。「必要性の高い未承認薬・適応外薬検討委員会」の第2回の募集が行なわれ、血液型不適合溶血性黄疸に対するガンマグロブリン、PDAに対するイブプロフェン、ミカファンギンの新生児適応拡大の要望書を提出した。新生児輸血に関する合成血の問題については、新生児の輸血問題小委員会の小山典久先生が厚労省に赴き文書を提出した。そのほか、液状化パリビズマブ早期承認についても要望書を作成した。また、適応外使用の場合の有害事象発生について報告制度の構築を目指し、検討している。

4) 雑誌編集委員会(千田委員長)

平成23年受付の投稿原稿は29編とほぼ例年通りであった。secondary publication(再掲載または二次出版と和訳)は、学会誌に日本語で掲載された論文を英文化して別の雑誌へ投稿するもので、一定の条件を満たせば二重投稿と見なさない出版形態で、本学会でも承認することとなった。また、本学会雑誌に掲載された論文を研究機関が知的生産物を電子的形態で集積し、保存・公開するために設置する電子アーカイブシステムであるリポジトリを学会で採用していきたい。

5) 教育委員会(中村委員長)

8月25日 (木) ~ 27日 (土) まで安曇野で開催した第15回教育セミナーを開催した。ワークショップ報告会の上位3チームが明日、午後1時より第4会場で発表を行う。来年度は、2012年8月23日 (木) ~ 25日 (土) に鹿児島サンロイヤルホテルで茨 聡実行委員長のもと開催される予定である。

6) 社会保険委員会(中尾委員長)

10月17日付で、RSウイルス抗原検査が外来でも乳児等のいくつかの条件下で認められることとなった。 また内保連には、在宅療法児入院管理料、新生児特定集中治療室管理料および新生児集中治療室管理料の 算定日数の延長について診療料評価提案書を提出している。

- 7) 医療器材の安全性確認委員会(猪谷委員長)
- 8) サーベイランス委員会(久保委員長)

明日委員会を開催し現在進行中のサーベイランスについて報告を行う。新規サーベイランス案が届いているのでこちらも検討予定である。これまで学会誌に挟み込んでいた報告書は、今後ホームページ上でできるよう検討を行う予定である。また、稀有な疾患の関連疾患の全数登録についても検討を進める。

9) 規約改定委員会(上谷委員長)

法人化について引き続き検討を行っていく予定である。

10) 学術集会の在り方検討委員会 (梶原委員長)

例年通り、ホームページにアンケートを掲載している。一般会員の方にも是非入力していただきたいと呼 びかけられた。

11) 広報委員会(側島委員長)

ホームページをリニューアルした。通常サイトは 5,000 件ほどアクセスがある。様々なお知らせを掲載したいと考えている。抄録集の PDF 版も載せている。

- 12) 倫理問題検討委員会(田村委員長)
- 13) 医療の標準化検討委員会(楠田委員長)

厚労省指定研究「周産期医療の質と安全の向上のための研究(INTACT プロジェクト)」についてのワークショップを担当される方に認定証と感謝状をお送りする予定である。

- 14) 医療訴訟問題検討委員会(板橋委員長)
- 15) 医療提供体制検討委員会(茨委員長)

昨年度までに梶原前委員長のもとで作成された正期産正常児の扱いについてのガイドラインは、現在、産 科との合同委員会で検討中である。

16) 感染対策/予防接種推進室(北島室長)

10月にアンケート調査を行った。167施設から回答をいただいている。近年、NICU での感染症についての全国調査がないので、今後、定期的に行いたいと考えている。予防接種については、入院中に Hib、肺炎球菌、百日咳ワクチンについても済ませられるようにと考えている。

17) PIVKA Ⅱ ワーキンググループ (楠田理事)

PIVKA Ⅱの供給が停止されたが、新たに別の会社が後発品として PIVKA-Ⅱ 用体外診断用医薬品を開発していることが判明し、現在、申請書類等、申請に向けた最終段階である。

18) 男女共同参画推進委員会(和田委員長)

明日会合を開き、今後の活動内容を決定して行く。

19) 災害対策委員会(和田委員長)

東日本大震災 (3.11) を受け、3月16日に設立された。全国の会員の皆様からたくさんの情報をいただき活動できたことについてお礼申し上げる。Q&Aを作ったのでご活用いただきたい。再構築の手順書を復旧支援手順書として改訂中。救児募金には目標をはるかに超える金額が集まり、相馬の子どもたちを対象にしたニコニコキャンプや気仙地区でのロタリックスの接種を行う予定である。

20) その他

• 小児科学会における「子どもの死に関する我が国の情報収集システムの確立」に向けた WG の活動と委員会設立に関する報告 (渡辺理事)

本邦における子どもの死に関するデータベースがないため、委員会が設立された。小児科学会が中心となり、活動をはじめていく。

• サーファクタント補充療法のガイドライン策定について(楠田理事)

1987年にサーファクテンが発売されて以降25年が経ち、現在ではサーファクテンの添付文書の用法・用量以外の使用法が普遍化している。添付文書が実態に合っていないので、ガイドラインの策定を検討するとのことで理事会・評議員会で承認された。

5. 新功労会員の件 (戸苅理事長)

理事会で推薦された奥 起久子先生,判治康彦先生が評議員会にて承認されたことが報告された。後ほど 感謝状の贈呈を行う。

Ⅱ. 協議事項

1. 平成22年度決算に関する件(本間幹事)

資料に基づき本間幹事より報告された。堺監事・船戸監事が監査をした旨報告があり、承認された。

2. 平成24年度予算に関する件(本間幹事)

資料に基づき本間幹事より説明・報告があり、承認された。

3. 次期会長に関する件 (戸苅理事長)

先ほどの評議員会で次期会長に推薦された近藤裕一理事(熊本市立熊本市民病院総合周産期母子医療センター新生児科)が承認された。

4. 次期副会長に関する件 (戸苅理事長)

同じく評議員会で次期副会長(次々期会長)に推薦された久保 実理事(石川県立中央病院 いしかわ総合母子医療センター新生児内科)が承認された。

5. その他

Ⅲ.新/会長・副会長挨拶

新会長:近藤裕一理事(熊本市立熊本市民病院総合周産期母子医療センター新生児科) ポスターを受付に置いているので是非手にとって頂きたいとの挨拶があった。 新副会長: 久保 実理事 (石川県立中央病院 いしかわ総合母子医療センター新生児内科) 2013 年 11 月 30 日~ 12 月 2 日石川県立音楽堂, ANA プラザホテルを中心に行う予定である。

Ⅳ. 新功労会員感謝状の贈呈

新功労会員の奥 起久子先生, 判治康彦先生に感謝状が授与された。

V. 学会賞受賞者への賞状の贈呈

名古屋市立大学の加藤 晋先生に賞状と賞金が授与された。